科目名	地域・在宅看護方法論Ⅲ―1	対象学年・時期	2年・後期
講師	専任教員	単位数・時間数	1単位・30時間（内15時間）
講義概要	ディプロマポリシー2、5に基づく。地域・在宅看護の主体は看護の受け手である療養者・家族である。自宅で療養生活を継続するには、対象と家族及び対象を取り巻く人々と適切なコミュニケーションを用いて、対象の意思決定に沿った自立支援が重要である。また、対象の思いや希望・ニーズに合わせた、自宅で使用可能な資源を用いた看護実践が必要となる。 本科目では、自宅という多様な状況下で、倫理的な配慮と安全性を確保し、自宅での環境や対象の状況に合わせた日常生活を整えるための援助技術を学ぶ。		
講義形態	講義、演習(グループワーク)		
学習目標	1. 地域・在宅看護における日常生活を整えるための援助が理解できる。 2. 地域・在宅看護における日常生活を整えるための社会資源が理解できる。		
学習内容 (授業計画)	1回目：在宅療養生活を支える基本的な技術 療養者・家族とのコミュニケーション、基本的なマナー、環境整備、感染予防 2回目：食生活と嚥下・排泄に関する在宅看護技術、社会資源の活用 3回目：清潔と衣生活に関する在宅看護技術、社会資源の活用 4回目：四肢の保持と移動に関する在宅看護技術、社会資源の活用 5回目：活動と休息に関する在宅看護技術、社会資源の活用 6回目：対象の日常生活に合わせた援助の工夫…個人ワーク(演習)① 7回目：対象の日常生活に合わせた援助の工夫　　発表会 8回目：終講テスト		
使用テキスト	ナーシング・グラフィカ　在宅療養を支える技術　メディカ出版		
事前学習・ 事後学習 (学習を促進できる学修)	基礎看護学の授業資料やテキストを読んで、各看護技術の原理・原則を確認して授業に臨んでください。 当該箇所をテキストで読み授業に臨んでください。 その他の事前学習は必要時授業中にお伝えします。		
評価基準と 評価方法	筆記試験		
備考			